



## 今月の農家さん

### 経営を考える楽しみ

守山市笠原町  
高谷 和由さん (67才)



小学生の頃から、ご両親の農作業を手伝ってきた高谷さんは、定年退職を機に本格的に農業を始めました。今は、数十年にわたってほ場を管理してきた奥様の正美さんと相談しあい、幼馴染みの農家さんを見習いつつ、「自分なら何が出来るか」を常に考え、挑戦する日々です。

高谷さんは現在、トマト6a、ナス4aなど夏秋野菜を中心に作付していますが、おうみんちでの売れ行きなどを見ながら、毎年大きく作付内容を変えています。「需要を讀ん

で、どう作付するかを考えるのは楽しいです」と高谷さんは話します。

また、コストを抑えるために手作りしたハウスが、台風で壊れて苦労した時も「これを機会にどこか改善しようか」と考えて、楽しみにつなげたそうです。

最後に高谷さんは「農業経営は、『人』『物』『お金』の三つを上手に管理する事、そして、課題の解決方法を考え、挑戦し続ける事が大切です」とこれから農業を始める方にエールを送ります。

## 営農情報

### 収穫前の早期落水防止

稲は成熟期まで水を吸い上げて穂へ養分を送るため、落水が早すぎると粒の肥大が不完全になり、茶米、死米、胴割粒が発生します。近年は昔に比べて夏の気温が高くなってきている影響で、胴割粒が発生しやすくなっていますので、収穫作業に支障をきたさないギリギリまで落水せず、ほ場の水分を確保しておきましょう。

### 収穫適期について

収穫は稲作を締めくくる重要な作業です。同じ品種でも田植えの時期によって刈取りの時期が異なりますので、気を付けてください。近年、出穂後の気温が高い年が多く、登熟日数が短くなる傾向にあります。成熟期から3〜4日を過ぎると、胴割粒が急激に増加するので注意が必要です。

収穫時期が近づいたらほ場に入り、左図のポイントを中心にして、適期に収穫しましょう。また、粒の大きい品種(秋の詩など)は胴割れしやすいので、特に注意してください。

### 収穫適期の目安



ポイント①  
上から3〜4本目の枝梗につく粉がすべて黄化した頃

ポイント②  
緑色粉が10〜15%残っている頃

葉色に惑わされず、ほ場に入って穂をしっかりと確認!